

## 胃 集 団 検 診 （ 地 域 ）

### 動 向

平成22年度住民対象の胃がん検診の受診者数は19,065名で、前年比342名の減少となった。昨年に比べて受診率が約16%上がった市がある一方、個別検診の希望者が増え受診率が約20%下がった市などがあり、全体としては微減となった。

県の集計（平成20年度の地域保健・健康増進事業報告）によれば、県域の胃検診の対象人口は約125万人で、受診率は6.9%である。国は、「がん対策推進基本計画」で5年以内のがん検診の受診率を50%以上とすることを目標の一つとしているが、受診率は低迷している。

平成22年度末には、日本消化器がん検診学会胃がん検診精度管理委員会編集による「新・胃X線撮影法ガイドライン 改訂版（2011年）」が刊行された。胃X線による画像や読影の精度レベルのさらなる向上を目指したい。

なお、協会は「神奈川県消化器がん検診機関一次検診連絡協議会」の事務局として、県内の一次検診実施機関が実施する消化器がん検診の精度・技術の向上のために協力している。

### 方法・結果

平成22年度地域検診における実施総数は19,065名（前年度19,407名）であり、胃がん発見数は27名（前年度22名）であった。要精密検査率は10.5%（前年度8.4%）、また要精密検査数2,005名（前年度1,633）であったことより、陽性反応的中度（PPV）は1.34（前年度1.34）と平成22年度同等の成績となった。

平成22年9月には、神奈川県を通じ日本宝くじ協会から補助金を受け、胃部DR検診車「長寿29号車」（写真）を導入した。これにより、胃部検診車全8台のうち7台がデジタル装置となり、より高い検診精度の実現が可能となった。

また、神奈川県消化器がん検診機関一次検診連絡協議会技術部会の活動として、県内各医療機関における胃がん検診X線装置の活用方法に関する実態調査を行い、今後の情報共有のあり方について検討を行った。その結果、県内において撮影装置のデジタ

ル化やサーバー保管体制などは、かなり整備されているものの、デジタル画像に付与する個人IDの共有化などが課題であることが判明した。医用画像の統一規格により画像表示の一貫性が可能となった一方で、地域がん検診における情報共有を活性化していく必要があると思われる。

一方、全国的な胃がん検診の動向としては、平成13年度より開始された「胃がん検診専門技師認定制度」について、平成23年度よりNPO日本消化器がん検診精度管理評価機構によるX線検診技術部門検定試験へ移行することとなった。胃X線検査に対する専門性の評価を主目的とした前者に対し、全国の胃X線検査の標準化を目指す制度への移行となった。これに先立ち平成22年度としては基準撮影法指導員試験を実施し、検定試験へ向けての準備態勢を整備した。

今後は医師を対象とした「読影部門検定」も含め、標準化を図る意向である。



関係の集計表は84頁に掲載